

連携を加速するカーボンニュートラル推進体制の構築と展開

概要

国立大学法人静岡大学は、第1期中期計画が始まった2004年より、一貫して環境を重視し、教育・研究・キャンパスの各領域において多様な取り組みをしてきた。こうした取り組みは、外部の組織からも高い評価を受けている。

しかし、学内においてカーボンニュートラルの議論が始まった2021年当時、社会課題解決のためには、大学の枠を超えた多様な人材や、人文社会科学から自然科学に至る知の連携の中で総合知を生み出し活用することが必要であるという認識が広がっていた。

そこで本学では、領域間の連携を推進するべく本学におけるカーボンニュートラルの取り組み方法を検討した。また、並行して、学際的連携を重視する組織の整備や、キャンパスを活用した教育研究を支援・推進した。

2024年度に策定したカーボンニュートラル宣言、アクションプランでは、多様な連携の重要性を明示するとともに、連携を可能にするための推進体制も構築し、すでに具体的な活動が生み出されている。今後、本体制のもと、継続的に、多様な連携活動が展開されると考えられる。

サステナビリティに関わる取組 2004-2020

静岡大学は、第1期中期目標・中期計画時より、サステナビリティを重視し、研究、教育、キャンパス、社会連携の各領域において取り組みを行ってきた。

大学運営・キャンパス領域

- 第2期中期計画にグリーンキャンパス（省エネルギー、代替エネルギー等、環境に配慮した施設設備）の構築を掲げる。（2010）
- グリーンキャンパス構築指針・行動計画の策定（2010-）
- 静岡大学環境方針策定（2010）

研究領域

- 第1期中期計画重点研究領域「生命・環境科学に関する学際的な研究」を設定（2004）
- 第2期中期計画重点研究領域「グリーン科学技術（環境・エネルギー科学技術）」を設定（2010）
- グリーン科学技術研究所設置（2013）
- 第3期中期計画重点研究領域「環境・エネルギーシステム、グリーンバイオ科学」を設定（2016）

教育領域

- 環境リーダー育成プログラム（科学技術戦略推進費、博士課程）（2010-2014）＊その後学内のプログラムに移行

社会連携領域

- 未来社会デザイン機構／サステナビリティセンターの設置（2020）

静岡大学環境方針（抜粋） 2010年4月1日

人と自然と地球が共生する持続可能な社会の構築を目指し、次世代により良い環境を引き継ぐため、大学が果たすべき役割の重要性・社会的責任を認識し、**本学における教育・研究・地域連携等のあらゆる面において、環境負荷の低減に資する環境保全活動を推進する。**

カーボンニュートラル推進に向けた学内の取り組み 2021-2023

知の拠点である大学として、キャンパスの活用も含む多様な連携のもと、カーボンニュートラルな社会に寄与するべく検討を開始した。こうした検討と並行して、学際的連携を重視する組織の整備や、キャンパスを活用した取り組みの支援・推進を行った。

カーボンニュートラル推進に関する検討

2021年度末より、カーボンニュートラル推進に向けた議論を開始。理事、主要部局・研究所代表を委員とするワーキンググループを設置し、キャンパス、教育、研究、社会連携各領域における取り組みと共に、領域間の連携を推進する方策に関しても検討を開始した。7回の検討会議を経て、2023年7月13日に、**13の提言を含む最終報告書**をとりまとめ、学長に報告した。

最終報告書の主要な提言内容

- 各領域の取り組みが有機的に連携するための全学的な体制の構築
- カーボンニュートラルに資する、文理融合や学際性を踏まえた研究体制構築
- 「キャンパスのカーボンニュートラル」への教職員や学生参画の推進



ワーキンググループで最終報告書の検討を行う様子

＊提言草稿の作成、そのための調査は、学長戦略経費支援のもと、企業出身者の協力も得ながらサステナビリティセンターが実施。

キャンパスを活用した取り組みの支援・推進

発酵とサステナブルな地域社会研究所（2021-）

アルコールが歴史上「人がともに食事する場」に提供されていたことに着目し、アルコールがもつサステナブルなコミュニティ作りの力に着目して活動している研究所。最初に検討組んだ中世ビールの再現の際には、**多様な分野の教員・学生がともにキャンパスの一角を準備し、材料の栽培実験を行った。**



研究所と農内ビルで醸造実験を行う様子

アオハル！エコロジラボ（2023-）

高校生による脱炭素アクションの企画を支援していくプロジェクト。本学は、静岡県との連携協定のもと、実行委員会に参加するとともに、同実行委員会事務局を務めている。**主要な会議はキャンパスで実施し、大学生メンターが県内高校生（毎年50程度が参加）をサポートしている。**



学内で開催された中間ワークショップにおいて高校生チームと教職員が対話する様子

＊「発酵とサステナブルな地域社会研究所」および「みぢかな木の家具・モノコトづくり研究所」は、研究者の申請にもとづき学長が許可する「プロジェクト研究所」である。3年ごとの評価のもとで継続の可否が決められる。

連携の基盤となる組織整備

グローバル共創科学部（2023-）

総合知を活用し社会課題の解決に取り組める共創型人材の育成を目的としている。**学内から参画した教員による学際的な科目や地域社会との連携にもとづくフィールドワーク教育**からなるカリキュラムを展開している。さらに、グリーンエコノミーの実現を通じてサステナブルな社会の構築に貢献できる人材を育成する生命循環共生学コースを設置している。

山岳流域研究院（2023-）

水源領域における自然生態系の喪失や災害の多発等の課題に対応するため、流域の全体を、自然環境と人間活動の関係性に着目しながら検討する「流域学」の修士号を出す日本初の組織である。こうした人材に求められる**分野横断的な視点で育成するべく、各学部・研究科から多様な学問分野の教員が参加**している。

みぢかな木の家具・モノコトづくり研究所（2023-）

身近な木の利用と森づくりの循環的な繋がりの方を発信していくことを目的としている。本学演習林や、家具関連企業と連携し、**家具の製作や学内各所での展示を実施。さらに、学内キャンパスを活用した、里山再生学習フィールドの拠点づくりも開始**している。



学内敷地内、学内敷地内で行われた山崎山公園の森づくりの視察会

樹木判別アプリを用いた実践的な環境教育（2023-）

本学教員が開発した樹木判別アプリ Find Treeを用い、樹木に貼付されたQRコードをスキャンすることにより、樹木の名称や特徴を学ぶことができる。**キャンパスをフィールドに、学生教育の他、中高生を対象にしたイベントも開催**されている。



キャンパス内にある樹木に設置されたアプリ利用のためのQRコード

カーボンニュートラル推進体制の確立と活動の展開 2024-

提言を受け、カーボンニュートラル推進本部設置準備室およびWGを立ち上げ、2024年7月にカーボンニュートラル推進本部を設置するとともに、8月にカーボンニュートラル宣言及びカーボンニュートラルアクションプランを公表した。2025年6月には、ロードマップを追加したアクションプランの改訂版を公表した。この体制のもと、すでにいくつかの取り組みが生まれ始めている。

カーボンニュートラル宣言

静岡大学における基本的な姿勢を示すとともに、**領域相互の連携・協働のもと**、取組を迅速に進めていくことを宣言している。

カーボンニュートラルアクションプラン

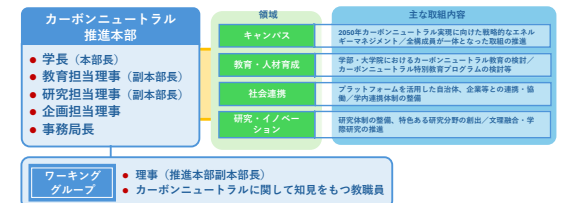
4領域12の取り組みを示している。準備期間の取り組み状況も踏まえ、キャンパスの活用を含む**領域間の連携や学際的連携を取り組みとして明示**した。

アクションプラン（抜粋）

- キャンパス全体を教育研究等の「実証の場」とし、全構成員が一体となってカーボンニュートラルの取り組みを推進
 - － 大学の特色のある教育研究のキャンパス実証を推進します。
- 実践的なフィールド教育の導入
 - － キャンパスや演習林などの自然資源や施設を活用したフィールド教育を積極的に導入し、実践的な学びの場を提供します。
- 多様なプラットフォームを活用した、国内・国外組織との連携促進
 - － カーボンニュートラルに関連する多様なプラットフォームを通じて、研究や教育における連携を推進していきます。

推進体制

推進体制は、推進本部およびその下に設置されたワーキンググループからなる。ワーキンググループは、各種取り組みを推進する上で必要な情報の収集や案の作成を行う。理事2名、教員11名、事務職員6名から構成されており、**連携を含む、多様かつ実現可能な取り組みを立案できる構成**となっている。推進本部は、本部長である学長および理事から構成され、ワーキンググループの案を審議のうえ、学内の適切な組織での実施を指示する。なお、ワーキンググループの活動に対しては、**サステナビリティセンターが、設置以来構築してきた学内ネットワークを活用しながら適宜サポート**を行っている。



推進体制のもとで生み出される活動

すでに推進本部設置後に具体的な活動が生み出されており、今後、継続的に多様な連携活動が展開されると考えられる。

カーボンニュートラル特別教育プログラム（2025-）

カーボンニュートラルに関する科目をパッケージ化したものであり、すべての学生が自分の専攻と並行して受講することができる。科目の中には、**キャンパス内や大学の演習林をフィールドとした実習**も含まれる。

静大サステナ映画館（2025-）

環境問題を扱った映画を視聴し、何ができるかを共に考える。**キャンパス内で開催し、学外からの参加も可能**。学内の環境サークル「リアカー」に所属する学生たちも運営に協力している。



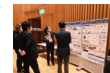
第1回映画会の様子（2025年7月）

＊これらの他にも、学内でのEV車の実証実験や、環境に配慮した行動にポイントを付与する自治体制度の全学的な導入を検討している。

推進本部設置記念講演会

カーボンニュートラル推進本部を設置したことを記念して、本学の取り組みを紹介するとともに、地域のステークホルダーとの連携のきっかけの場とすべく開催した。会場では学部生や大学院生によるのポスターによる研究発表も行われた。講演会には地域のステークホルダー126名が参加した。

開催日：2025年2月20日



学生による研究発表の様子